
FAIRYTAIL 最強の傍観者襲来！！

カヲル君を愛してる

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

FAIRYTAIL 最強の傍観者襲来！！

【Nコード】

N6163W

【作者名】

カヲル君を愛してる

【あらすじ】

僕は普通の女子中学生えっ？何で一人称が僕かって？なんとなくwwそんなこんなで普通の日常が紅一点えっ転生？？まちで気づいたときはすでに遅し！！最強の能力を持ちながらも傍観がしたい！でもある日突然原作ブレイクしちゃって・・・・・・亀更新です・・・・・・

ブローグと言つ名の転生！！（前書き）

ヤッホー

やっちまつたW W

まあいいかW

ブログと言つ名の転生！！

こんにちは僕は桜さくら 恭華きょうか普通の子供中学生です

今は僕の仲間を傷つけた奴等をボコリ中ww普通じゃないって??
気にしない気にしない

まあボコリ終わって帰ってたら居眠り運転でトラックに突っ込まれました

で・・・目が覚めたらどこか見たこともない人に謝られてしまいました・・・

でどうやら話があるそうなので聞きましょうか・・・

「スマン俺のせいで殺してしまった・・・」

はっ・・・今何て言った??「俺のせいで『殺してしまった』だあ～～」

「おいどうしてくれるの??」

「すみません」

「はあでアンタ誰なの?」

「俺は『神』で名前をカムイだ」

・・・はっ??

「意味がわからないんですけど?？」

「てか頭大丈夫?？」

「頭は大丈夫だ」

「人の心読まないでくれるかな?」

「まあまあ今からお前は『FAIRYTAIL』の世界に転生して
もらう能力は何がいい?」

「本当に!?!」

僕は不覚にも喜んでしまった
だってミストガンやグレイに会えるんだよ

説明しよう彼女はグレイとミストガンが好きなのだ!!

「本当だ」

「能力はね、REBORNの指輪^{リング}を全部使えることと・・・ATF
イールドが使えることと身体能力メツチャ良くして後は・・・NAR
UTOに出てくる忍術と口寄せが使えることと斬魄刀が使えること
超電磁法^{レールガン}が使えることとお願いしますあつあと魔力は∞で」

「わかったちなみにボックスも使えるからな」

「まじやった〜」

「名前はどつする?？」

「じゃあギルミア」ナイトで」

「じゃあな」後たまに見に行くから」

「わかったよ」

そういつて光に包まれ消えていくのでした

ブローグと言つ名の転生！！（後書き）

書いてしまったww

ええいどうにでもなっちゃえww

設定だよ（前書き）

主人公の設定です

設定だよ

主人公

名前：ギルミアⅡナイト

転生前：桜 恭華

性別：女

年齢：ナツ達と同じ

一人称：僕

怒った時の一人称：俺

性格：COOLな性格だが結構打ち解けやすい

仲間を傷つける奴は絶対に許さない

REBORN!の雲雀^{ヒバリ} 恭^{キョウ}弥^{ウヤ}みたいです

能力：ATフィールド

攻撃から身を守る壁『絶対防御』元ネタ（新世紀エヴァンゲリオン）

指輪^{リング}

7つの指輪^{リング}に覚悟を炎にかえてボックスを開け道具を出し攻撃する

属性：大空・嵐・雷・霧・雲・雨・晴れの7つ

元ネタ（家庭教師ヒットマンREBORN！）

忍術・口寄せ

印を組みいろんな技で攻撃する

口寄せは生き物と呼んで戦う（九尾も口寄せできます）

元ネタ（NARUTO）

斬魄刀

刀を『始解』や『卍解』などで形状をかえて攻撃する

元ネタ（BLEACH）

レールガン
超電磁法

コインを使い手に電撃を貯めてコインをはじき攻撃する

砂鉄などでも攻撃または防御が出来る

元ネタ（とある科学の超電磁法・とある魔術の禁書目録）

容姿：顔は Pandora Hearts のアリス

髪型と髪色は（とある科学の超電磁法・とある魔術の禁書目録）
の御坂 美琴

目の色は右が蒼で左が赤

服装：黒をベースにした髑髏のプリTにジーンズのショーパン

アクセサリ：髑髏のネックレスに十字架のブレスレット

身長：167cm

体重：48kg

誕生日：5月17日

神

名前：カムイ

性別：男

身長：173cm

体重：54kg

年齢：覚えてない

誕生日：覚えてない

性格：五月蠅いが結構大人しい部類に入る

容姿：とある科学の超電磁法・とある魔術の禁書目録の土御門

設定だよ（後書き）

ハ口ゝゝ

設定でした^^

スタート1・異世界からの傍観者来襲！

起きたらそこは広い森の中だった……………

「ココどこだよったくまあいい住む所探して力の訓練しよう」

そう言つてギルミアは探しに行つたのだが……………そんな
に経たないうちに…………

「マジかよ」

猛獣に会つてしまった

逃げる事も出来なく大空の指輪^{リング}をはめて炎を糸も簡単に灯してしま
つた

「簡単だよ……………」

そう言いながら大空のボックスを空けて出てきたのは……………

「やっぱりグローブか……………」

そう言ってはめて

「ゼロちてんとつば零地点突破・改^{かい}」

で気絶させるギルミアだった……

「はぁ……こんなに簡単なのかよ」

いやいやそれはあなたが強いんですよ by カムイ

とまあこんな事が有り無事に住処を見つけ特訓しながら森の動物達と仲良くなって早5年

いつもの生活を送っていると……

「ウウウウウウウウウウウ」

どこからか聞こえる獣の声

「まずいな」

と言いながら声のしたほうにいくと喧嘩をしている獣・・・いや喧嘩と言うよりイジメだなと思えるほどひどい状況

イジメてる奴をボコリ仲直りさせて帰ろうとした所

「お前さんすごいな」

突然聞こえる声・・・

「（あの人は妖精フェアリーの尻尾テイルのマスターマカロフ）誰？」

知ってるけど聞くギルミア

「ワシは妖精フェアリーの尻尾テイルのギルドマスターマカロフじゃお前さんの名は？」

「僕の名前はギルミア＝ナイト」

「どっじゃお前さんわしのギルドにこないか？」

「（これはチャンス）いいですよ」

「じゃあ行くぞ」

「わかりました」

くマカロフsideく

依頼がきてわしが自ら行ったんじゃが正解だったようだな

噂では誰かが獣を従えて村人を襲わせない様になっていたらしいが本当
にいたんじゃないかな

しかもギルドに誘ったらすぐにOKだしたわい

これから忙しくなりそうだな

くカムイsideく

「やばい間違えてめだかボックスの『大嘘憑オールドイカヨンき』付けてしまった」

怒られる〜と内心ハラハラしていた

「ココは念話でっつ」

くギルミアsideく

『マジかよとんだ物つけてくれたな．．．．．はあもう仕方ない
いよもう』

『ありがとうよっじゃあな』

はあ大変なことになりそうだ

イキナリかよっ!! (前書き)

はぁ連続投稿だゝゝ

イキナリかよっ!!

「俺と戦え!!!!!!」

「俺と戦えよ!!」

「いや俺とだ!!」

「いや私とだ」

「いや私とだよ」

なんでこうなってしまったのだろう??

上から順にラクサス・ナツ・グレイ・エルザ・ミラジエーンだ

まあさっきの事を振り返ってみよう・・・!

「ここがギルドじゃ」

「へえ結構広いね」

「マスターお帰り」

結構面白そうだな

ああゝゝあそこで喧嘩してるよ

あつ女の人が止めた

とめたと思ったらちがう女の人と喧嘩したよ

「えええかげんにせんか!!!!!!!!!!!!!!」

ウルサ!!

耳が痛いよ

「マスター帰ってたんですか」

「そうじゃ皆に報告がある今日から『家族』なかまが増えるぞい」

「ドーモ ギルミア^レナイトですギルって呼んでくれ」

「マスターそいつ強いのか？」

「強いぞ」

「なら俺と戦え」

と言うことで序盤に至るわけだ

「あのジャンケンで決めてもらえませんか？」

と言うと早速し始める

でどんな順番になったかと

1・ナツ

2・ミラジエーン

3・ラクサス

4・ツレイ

最後にエルザ

はぁメンドイ・・・

イキナリかよっ!! (後書き)

つぎは戦いますよ!

ナツVSギル

ミラジェーンVSギル（前書き）

戦うよ

ドーゾ

ナツVSギル

ミラジェーンVSギル

これからナツと戦うギルだよ

はつきし言ってメンドイ……

まあやるしかなさそうだけど

「審判はわしが努めるぞ準備はいいか？」

「いいぜえじつちゃん」

「いいですよあつその前にと」

指輪^{リング}をはめるギルはめたのは大空

「はいこれでいいですよ」

「では始めじゃ」

そう言うと同時に指輪^{リング}に炎を灯しボックスを開きグローブをはめる

「火竜の咆哮」

ナツが攻撃した火を吸収するギル

「なんだ弱いじゃん」

「やれやれ見くびらないで欲しいな」

そこに立っていたのは傷ひとつないギル

「じゃあこっちから行くよ」

そう言っ炎の力でナツに近づき

「零点突破・改」

そこには傷ひとつないギルと気絶しているナツが居た……

「っ・っよい」とギルドのみんなが言った

「さて次は誰？」

「私よこっちは本気で勝ちに行くから」

とミラジェーンが言った

「はぁメンドイ」

と言いながら指輪^{リング}を代える

今度は雲の指輪^{リング}

「ギルって言ったわね何種類の魔法使えるの??」

「うっん沢山」

「なめないでよね『サタンソウル』」

ミラジェーンは悪魔の力を身にまとった

「そんなので倒せると思ってるの?？」

そう言いながら紫の炎を灯しボックスを開けトンファーに炎を灯す

「でわ始め」

マカロフの言葉で始まった

キンッ

ガッ

キンッ

と武器が交わる音がする

「へえなかなかね」

「これでも10分の1も出してないけど？」

「なっ」

彼女は驚いた私は本気で戦ってるのにと……

「じゃあね」

そう言ってトンファーで意識を刈り終わった

「勝負あり」

その言葉でいっせいに歓声があがった

ウルサーとおもうギルだった

ナツVSギル

ミラジェーンVSギル（後書き）

やった終わり

ラクサスVSギル

くラクサスサイドく

「（あいつ強いなナツはいいとしてミラをあんな簡単に倒すなんてな俺も楽しみだぜ）」

くギルミアサイドく

「（はぁ勝負してとか言われたけど弱い……めんど……でもなあ）次誰？」

くサイドアウトく

「俺だよ名はラクサス」

「フーンねえ君は何の魔法を使うの？」

「雷だ」

「フーンじゃあこっちは」

そう言いながら出した指輪リングは雷をはめた

「君にはこれで十分だよ」

「はっなめられてもな」

「じゃあはじめるぞい
よゝい始め」

マカロフの言葉で始まった・・・

「レイジングボルト」

ラクサスが攻撃した

周りは砂埃で前が見えない

「終わったか？」

砂埃に影が出た

「甘く見ないでよちなみに僕も雷使えるよ」

「なっおいこいつにならいいか『アレ』」

「はあわかったわい 使ったったら使え」

「はっそう来なくっちゃ『雷竜の咆哮』」

「だから雷は効かないってば」

傷ひとつない体

「アレどうなってるんじゃ？」

「気になる？俺の魔法受けてみなよ『エレクトウリコ・リバーズ』
どう？貴方が放った雷の量？」

「クソッ・・・・・・・・ハア」

「まだ立てるの？じゃあこれでどう？」
エレットウリコ・コルナータ
『電撃角』」

砂埃が起き周りが見える頃にはラクサスは気絶していた・・・

「ねえマカロフココってこんなに弱い奴ばかりなの？」

「それはギルが強すぎるんじゃないよ」

「そうかな？あっ起きた」

前を見たらボロボロになっているラクサス

「くそ次こそ勝ってやる」

「ひどいね君達僕は正真正銘女だよ」

「スマンわからなかった」

「ケッ（女に負けたのかよ恥ずかしいだろうが）」

「ギルって女だったのか」

今 그레이의 声が聞こえたような？

振り返ると上半身裸の 그레이가あああ

「(やばいやっぱし本物^{マシモン}はかっこいいよ)」

と思うギルミアでした

ラクススVSギル（後書き）

次はグレイとです

どうなるのかな？？

グレイVSギルミア エルザVSギルミア

「さて次は俺が相手だな」

次はグレイとだ……………

グレイはこう思っていた

「（結構力ワイイと思うなでもあの強さは駄目だろ）」と

そんな事知る由もないギルミアは……………

「（ウウゝ嫌だよゝグレイと戦うのゝゝ）」と

ギルミアは晴れの指輪^{リング}を付けた

「手加減しないぜ」アイスメイク・ランス槍騎兵」

攻撃を難なくかわしたギル

「その程度？」マキシマムキャノン『極限太陽』」

そこには気絶したグレイと傷ひとつないギル

マスターは思った

「（エルザより化け物なのかよ………これは大変じゃな）勝負ありじゃ」

「はあ次の人早くして」

「私はエルザだよろしく」

「こちらこそ」(エルザ結構カワイイんだね)

「始めじゃ」

マスターの言葉で始まった・・・

「『換装』天輪の鎧」

「へえこれが貴方の魔法なんだ♪ 噛み殺したいよ」

「サークル
ソード
循環の剣」

剣が空中に出てきてギルに向かっていく

「ワオいっぱいあるね《ATフィールド》」

砂埃が舞い回りが見えない

「遅いねしかも後ろがから空きだよ」

そっいつて背中に向かってトンファーを振りかざす

それを交わすエルザ

「ワ才強いねじゃこつちも『風遁・大突破』」

まわりからは……

「おいっギルって何種類の魔法が使えるんだ??」

「後で聞こうぜ(怯)」

などとの声が……

「なかなかやるな」

「そつちこそ《影真似の術》成功」

「なっ体が動かない」

「コレは僕と同じ動きをする様になってね．．．でもそこに居るのは《影分身》だからさエルザの負けだよ」

そういつてトンファーで意識を狩るギル

「勝者・ギルミア＝ナイト」

「うわあああ」

ウルサー 静かにしろよお前らと心の中で突っ込むギル

「いやどう考えたって多すぎだろ」

「そんなことないですよグレイ」

こうして波乱万丈な一日が幕を下ろした・・・

グレイVSギルミア

エルザVSギルミア（後書き）

数えました

つかれた

以上って答えたのはつかれたから途中から数えなくなったから

でわアディオス

えっもっもう原作開始~~~~(驚)(前書き)

フ~~~~

はしょってなんかないんだからねっ!!

えっもっもう原作開始~~~~~（驚）

〜ギルミアside〜

ヤッホ〜

今まであったことはこんだけかな？

S級魔導師になりました！！（ドンドンパフパフ）

あつ後2つ名が『ブラッディンク・プリンセス・リング血塗^ラり指輪姫』だつて

ちょーイヤダア〜〜だつたら『アクセラレータ一方通行』の方がいい！！

ちなみに『妖精の尻尾^{フェアリーテイル}の印は右肩に紫で付けたよ♪
ホントは蝶の印がいいけど………

まっいいか

ああ〜ああいつらまた喧嘩してるよ

side out

「今帰ったぞ」

「エルザお帰り〜ところでその角はどうしたの??」

「ああ村人が飾り付けてくれたんでな貰って来た」

「フウ〜ン」

「よ〜ろでお前らは喧嘩してないか」

「あつ……あぁほ……らこの……
……通……り……俺ら……
はいつ……も……通り……だ」

「あいつ」

「あつナツがハッピーみたいになってる（笑）カワイイ」

「君は新入りか??」

「あつハイルーシィ・ハートフィリアって言います宜しくお願いします」

「私はエルザⅡスカーレットだエルザと呼んでくれ」

「ええあのエルザ！！握手してください！！！」

「あっああ」

突然態度が変わったルーシィに戸惑うエルザ

えっもちろん僕も握手してって頼まれたよ

「ミラ、マスターは居るか？」

「ああマスターなら定例会に行ったわよ」

「そうかぁー本来ならばマスターの判断を仰ぐところなんだが大変だ

からな早く倒さないとやばいからなッ・グレイ・ギルお前らの力を貸したくれ！」

「なんだエルザが頼みんだ」

「別に俺はいいけどよお」

「うんグレイが行くなら僕も行くよ」
（ああ鉄の森か）
アイゼンバルド

「本当かなら明日荷物を持って駅に集合だ」

「ああわかったぜ」

「わかったよ」

余談だがなぜか『めだかボックスの異常しかもオリジナルの』^{アフノーマル}『完全』^{パーフェク}
能力』^{ト・コレ}がついてた

なので……エルザとナツとグレイとルーシィとラクサスの魔法が使える……あつ後風も♪

カムイ殴りたいけど……まあ便利だしいいや♪

はあ早く寝よ♪

えっもっもう原作開始~~~~~(驚)(後書き)

なんかいろいろ忘れてる……………

本買いたいけど金がねえ~~~

9・寝坊した~~~~~><

ハ〜イ

現在遅刻する時間ですね・・・

何で冷静なのかって？

寝てるからですよww

いつになったら起きるのが自分でもさっぱりわかりませんし

まあエルザは気にしないと思うしねww

それより今は寝てるタイミングなので寝ましよう!.....!

やっと大切なことに気づいたようですネ

「でも飯食わないといけないけどね」

今この人何て言いました？？

ありえないよねえ？？

＼ 1時間 ＼

飯食うのに時間かかり過ぎじゃボケエエ

作者キーク

「イツテエゝ何すんだよ?？」

そんな事言つてるとあの人とかあの人とかとイヤコラさせねえぞ
！！

「ザアアア（↑スライディングOrz）スミマセンシタアアアア
アア」

よしなら逝ってよし（扉に向かってビシッ！）

「お前どこの監督だよ」テニプリの氷帝のあの香水くさいらしい確
か43歳のおっさんのマネスナア」

クフウフじゃあね

ボンッ

「消えんなよ！！！！ハアハア

もういい行けっ

9・寝坊した~~~~~><(後書き)

ギャグ書いてみました??

どうでしょうか?

感想ブリーズミ

6000アクセス記念

アクセス

6000を超えた

|| 3

チヨウうれ

ということ番外だっさ

と言う事で

テニス大会だっさ

やった事ねえから

アイツを脅s・・・ゲフン

アイツと少しO・H A・N A・S H I

してリョーマ（テニプリ）の技使えるようにして貰えた

シングルス
sだつて

一回戦

エルザVSモブ

もちろん6 - 0でエルザの勝ち

2回戦

モブVSモブ

どーでもいいからパス

3回戦

ナツVSロキ

ロキ、頑張って

6 - 9でロキの勝ち!!

4回戦

グレイVSモブ

6 - 9でグレイの勝ち

続きは次回！！

「っ
ておい

はえ
」よ

何
グレイ？

拗
ねてんの？

「いやちがつて

こんなことしてて

読者喜ぶのか？」

さあ知らない

じゃBAYBAY

E
N
D
W
W

• • •

「おいまでよ〜〜」

6000アクセス記念（後書き）

次回はちゃんと書くよ

10（前書き）

もう原作覚えてないorz

10

「ハッ・・・ハッハハハ」

ただ今爆走中

3分後

駅
の
近
く

今気づいたけど

瞬歩使えばはいいいいいい
~~~~~

というわけで

瞬歩

〽1分後〽

「はあ・・・ごめん遅れた」

「おせえぞ」

「遅い

「ギルミアやる気あるのか?」

「おそいですねえ」

「おそつ（ボソツ）」

「グレイ聞こえてっぞ」

「エルザやる気はあるって」

「寝坊しちまったんだよ」

「少しは静かにしろや」

「そ．．．そうか」

「ちて早くいくぞ」

「あい」

ん？？

「いたんだ

ハッピー」

「ひどいよぉ」

いたんだって

ギルウ（泣）「

「ああハイハイ

じゃ行こうか？」

汽車？に乗り

ナツ・・・

酔いました

ただ今説明中

うゝん

めんどいなあ

「ばあ

寝ていい？

「つてか寝るな」

[illegible]

「ハイ」

ハ

「ほんとだな」

## 10 (後書き)

結構短いな

次回

???????未定  
WW

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6163w/>

---

FAIRYTAIL 最強の傍観者襲来！！

2011年10月30日21時15分発行